



## 時を越えて 素敵な出会い



時を駆け抜けて違う時代に旅をしたら、なんて考えたことがありますか？

6月10日は「時の記念日」でした。小説の世界では昔も今も未来も、時を越えて味わうことができます。

読書で好きな時代を味わいましょう！

### ことわざ

#### 時は金なり

時間はお金と同じくらい貴重で有効なものだからむだに過ごしてはいけないという教え。時間の大切さを教えていて日本でも広く使われていることわざだが、外国のことば Time is money. が語源。



#### 雨垂れ石<sup>うが</sup>を穿つ

雨垂れが長い年月の間に石に穴をあけるように、一つのことを根気よく続けていれば必ず成就するということ。



### 図書委員おすすめの本

#### 『ライバル』

川村健一 著

ふたりは高校のゴルフ部の1年生。すらりと長身で全国中学生選手権3位の実力者、宇希恵。天然で元気はあるのですが、なかなかスコアメイクにつながらない葉奈。けれども宇希恵は葉奈の実力を買っています。全日本に一緒に出ようというのです。「それだけの力が葉奈にはあるよ」と。『ライバル』だからと。



(PHP 研究所)

1・2年生へ

### 朝読書週間のお知らせ

7月7日(木)～20日(水)

7月7日(木)～20日(水)は「朝読書週間」です。3年生は2学期に行きます。

この期間中は朝学の時間が読書の時間になります。本を読む時間がなかなかとれない人には絶好の機会です。読みたい本を各自準備しておきましょう。教科書、マンガ、雑誌は不可です。

☆読む本を早めに準備しておきましょう。

☆図書館で借りる人は前日の放課後までに借りておいてください。当日の朝の貸し出しはできません。

### 夏休み特別貸し出しについて

(夏休み前の特別貸し出しも含む)

〈期間〉 7月4日(月)～8月2日(火)

〈貸出冊数〉 ひとり5冊まで

〈返却期限〉 8月25日(木)



### 作家紹介

みなと 湊 かなえ

1973年広島県生まれ。兵庫県・淡路島在住。第29回(2016年)山本周五郎賞受賞。受賞作「ユートピア」は海辺の町が舞台。女性3人がボランティア基金を設立するが善意で始めたはずの行為にずれが生じる。よそから来た者と地元住民との溝も埋まらない。さらに…。

読後感の悪いミステリー「イヤミス」の代表的作家として知られる。

デビュー作「告白」は本屋大賞を受賞し、映画化もされ、大ヒットをおさめる。ほかに「Nのために」「夜行観覧車」「白ゆき姫殺人事件」など著書多数。



## 新着図書案内



### 『君の臓腑をたべたい』 住野よる 著

ある日、高校生の僕は病院で1冊の文庫本を拾う。タイトルは共病文庫。それは、クラスメイトである山内桜良が密かに綴っていた日記帳だった。そこには、彼女の余命が臓腑の病気により、もういくばくもないと書かれていた。こうして、偶然にも【ただのクラスメイト】から【秘密を知るクラスメイト】となった僕。まるで自分とは正反対の彼女に、僕は徐々にひかれていった。だが、世界は病を患った彼女にさえ、平等に残酷な現実をつきつける。そして全ての予想を裏切る衝撃の結末が待っていた……。

〈2016年本屋大賞2位〉

(双葉社)



### 『ランクA病院の愉悦』 海堂尊 著

とんでもない医療格差が出現した近未来の日本。売れない作家の終田千粒は「ランクC病院」で銀行のATMに似たロボットの診察しか受けられない。そんな彼に「ランクA病院」潜入取材の注文が舞い込む。他に「健康増進モデル事業など」全5作の短篇集。

(新潮社)



### 『古書カフェすみれ屋と本のソムリエ』

里見蘭 著

すみれ屋で古書スペースを担当する紙野君が差し出す本をきっかけに、謎は解け、トラブルは解決し、恋人たちは忘れていた想いに気付く。オーナーのすみれが心をこめて作る

絶品カフェごはんと共に供されるのは、まるでソムリエが選ぶ極上のワインのように心をとらえて離さない5つの忘れ難いミステリー。きっと読み返したくなる名著と美味しい料理を愉しめる古書カフェすみれ屋へようこそ！ (大和書房)



他に

『鍵のない夢を見る』辻村深月 著 〈直木賞受賞作〉

『対岸の彼女』角田光代 著 〈直木賞受賞作〉

『ハーバードで一番人気の国・日本』佐藤智恵 著

『GENE MAPPER』藤井大洋 著 など



## 映画・ドラマの本 読んでみませんか？

### 世界から猫が消えたなら

川村元気 著

(マガジンハウス)

一匹の猫と共に暮らす男性郵便配達員が主人公。著者の川村さんが、幼い頃に飼っていた猫が突如姿を消した体験と大人になってから携帯電話を失くした体験、それぞれの時に感じたことから着想を得て、構想に約一年、執筆に約半年が費やされた末に完成した。基本的にはファンタジーであるが、家族のかたちを描いたドキュメンタリーの要素もあり、読者の誰もが自分に置き換えて入りこめるようにとあえて登場人物は“僕”や“彼女”にして個人名は付けられていない。

—あらすじ—

体調不良に悩まされていたが、ただの風邪と思っていた「僕」は医者診察を受けた。そして進行の進んだ脳腫瘍であると告知された。家に戻ると、自分そっくりの容姿の「悪魔」を名乗る者が現れる。悪魔から「世界からひとつなにかを消すと、一日寿命が伸びる」と告げられたぼくは……。



返却期限が過ぎている人はいませんか？返却をするか、貸出延長の手続きを必ず行ってください。